

この他の新着本は、図書館ウェブサイトから調べられます♪

呪いのスマホ 続・ゾットする怪談えほん

有田 奈央／文 市川 友章／絵
(親日本出版)

あなたのスマホは大丈夫？身近にありそうなゾットする怖い話。読んでいて、ゾクゾクがとまらない！ゾットする怪談絵本のシリーズ続編。

13歳からの考古学 なんで古墳を造ったの？

河野一隆／著 (新泉社)

空から見えないと全体が掴めないほどの大きな古墳を、古代人はなぜ造ったのか。考古学者である著者が、過去と対話して考察し、小説形式で記しています。

図解でわかる14歳からの ストレスとからだのケア

社会応援ネットワーク／著
(太田出版)

私たちが日々感じているストレスや小さなサインを見逃すと、体調不良につながることも。ストレスの対処方法とケアのアドバイスが紹介された本です。

クラシック音楽への招待 子どものための40の楽曲たち

飯田 有抄／著 (音楽之友社)

音楽の授業や CM・BGM でよく耳にするクラシック音楽を、易しい文章で解説。作曲秘話や聴きどころを知って、あなたも音楽通に！各ページの二次元コードからすぐ聴けます。【聴く→読む→もう一度聴く】がオススメです。

13歳からのメンタルヘルスの教科書 自分の「こころ」に会いに行く

カーラ・ビーン／著 精神科医さわ／監訳 (ダイヤモンド社)

10代の柔軟な脳は、様々な体験や学びによりマイナス思考やプラス思考になります。医学的説明が漫画になっているため、気になった部分から読み進められる本です。

YA PICK★UP

2/1~4/30
入荷分

高校受験 15歳の進路選択

高原 史朗／著 (岩波書店)

受験への不安を抱えた中学3年生の葛藤と成長を描く群像劇。共感と感動の物語の巻末には登場人物のおススメ本も。余韻の中で新たな本との出会いも楽しめる一冊です。

男子の恋のありがち

青春 bot／著 (スターツ出版)

男子も好きな女子の前では一喜一憂する！？こんな時は〇〇しがちなど男子視点の恋する気持ちを綴った一冊。「クラスの男子も実はこんなことを…」や「自分もこれは思っている！」と男子も女子もにやにや&共感がちな本です。

図解でわかる14歳から知る 戦争と人類の1万年史

インフォビジュアル研究所／著 (太田出版)

「戦争は悪だ」という考え方は、人類に最初から備わっていた訳ではありません。なぜ戦争は「絶対的な悪」なのか、私たちはどのようにその答えに行き着いたのか？1万年の歴史を見つめ直し「思う・感じる」から一歩進んで「理由を知る」ための一冊です。

見た目で好きになる ってダメですか？

神戸 遥真／作 (講談社)

人は見た目？中身？同じ予備校に通う高校生5人の恋が動き出す。コンプレックスに悩み、右往左往しながらも、一歩踏み出す彼らの恋の行方と答えとは？

武蔵野 乙女の本棚

国木田 独步／著 しまぎき ジョゼ／絵
(立東舎)

東京郊外・武蔵野の風情ある自然と人々の生活が、細やかに、詩的な文体で描写されています。明治31年発表の名著を、爽やかなイラストとともに味わえます。

中高生のための 著作権入門

関口 慶太 他／編著 (ミネルヴァ書房)

中高生を対象に、学校や SNS などの日常生活で起きる著作権についての疑問に答えてくれる一冊。専門用語を使わず解説しているので、初めて学ぶ人にもわかりやすい本となっています。

ティーンズと創る図書館情報誌

Lmagazine

Library, Letter, Life... Lmagazine の”L”には、いろんな”L”がつまっています

静岡市立図書館 YA 担当／編集・発行

[2026] July | vol. 15 |

★☆☆ 新着 イチオシ！ ☆☆☆

➤井上 マサキ／著

『絶対に見たことがあるアレの正体、聞いてみた』(大和書房刊)

◇街中や店内、TV で必ず目にしたことのある「アレ」について
開発者や製造企業に直撃インタビュー！

◇身のまわりのものを生み出す仕事を覗いてみましょう。

・呼出しボタンは飲食店以外でも大活躍！

・国内唯一の鍵盤ハーモニカ工場は静岡県内に！？

……などなど、誰かに話したくなるエピソードばかりです。

ひとつひとつに込められた思いを知ると、日々が楽しくなること間違いなし！

◇易しい表現の文が各章 15 ページ前後にまとまってテンポよく読めるため、朝読書や寝る前のひと時におすすめです！



静岡市立図書館の情報はこちらから！



図書館
ウェブサイト



X
(旧 Twitter)



しずおかし
電子図書館



岩宮 恵子／著

『好きなものにはワケがある 宮崎アニメと思春期のころ』

ちくまプリマー新書（筑摩書房刊）2013年

臨床心理士として現場で働いている著者が、いわゆる「思春期」とよばれる世代の若者との会話の中で、宮崎アニメ（ジブリ）の話題が多く出ることに着目し、思春期の子供たちの感情と宮崎アニメの関係性について考察した一冊。ジブリの名作アニメのさまざまなシーンやストーリーについて、それが「描かれた理由」や「そのラストになる必然性」などが、専門家である著者の視点から心理学的に分析されています。心理学に興味がある方や、ジブリ好きの方にもおすすめです！



小島 毅／編著 『知の古典は誘惑する』

岩波ジュニア新書（岩波書店刊）2018年

洋の東西を問わず「古典」とよばれる哲学書7冊をピックアップして、それぞれの本にどんなことが書かれているのか、古典哲学書の特に興味深い部分を噛み砕いて解説してくれている案内書です。

「古典や歴史は教養のために読むもの」と敬遠してしまいがちですが、「ざわりだけ」という気楽さで読めて、読み進めると東洋と西洋のものの見方の違いがみえてくるところが楽しい一冊です。



「哲学」という言葉を聞くと、どんなイメージが浮かびますか？

難しそうで、退屈そう。理想や想像の話？ なんだかよくわからない学問分野だよな…。

YA世代だったころの私は、哲学（「倫理」の授業）に対してそんなイメージを抱いていました。

でも実は、哲学には、物語に負けず劣らず「興味を惹かれるおもしろい本」がたくさんあるんです！

哲学の出発点は「なんで？ どうして？」という素朴な疑問について、「こうじゃないかな？」と自分自身で考えてみることに。ぜひ、気軽な気持ちで読んでみてください。今回の特集では、YA世代の方に向けて書かれた、わかりやすく読みやすい、おすすめの哲学本をご紹介します。（司書 道産子）

島蘭 進／著 『宗教ってなんだろう？』

中学生の質問箱（平凡社刊）2017年



「知っているようだけど、よく考えてみるとわからない」というさまざまなテーマについて、その道の専門家が、中学生の質問に対談形式で回答。その内容を本にした『中学生の質問箱』シリーズの一冊！

「宗教心がある／ないとはどういうこと？」「動物にも宗教心がある？」という素朴な疑問から「宗教は危ないもの？」「宗教が争いを生むの？」という踏み込んだ話題まで、やさしい語り口ながらも本質的な部分をはぐらかすことなく考えていきます。

結論を出すことよりも、考える過程そのものを楽しむ本。YA哲学書の入門としておすすめです。

丸山 俊一／著

『14歳からの個人主義 自分を失わずに生きるための思想と哲学』

（大和書房刊）2021年

「個人主義」という言葉を聞いたことがありますか？「個人主義」は「全体主義」の反対の言葉ですが、この本の著者は「個人主義」という考え方について、自分の価値観を作り上げる自由だと定義し、それは同時に、他人の価値観を受け入れることで完成すると主張しています。

夏目漱石をはじめ、西洋の有名な哲学者や精神学者の著作をひもときながら、著者自身の経験も交えて、個人主義について教えてくれる本。「みんな仲良く、みんな一緒に」という価値観に疑問をもったことがある人に、一度手に取ってほしいです。

